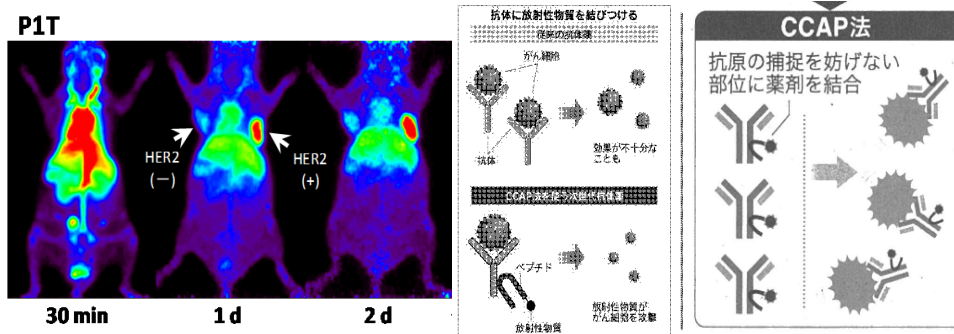


放射性抗体医薬品によるガンの診断・治療法の開発

現在、抗体医薬品は、その標的に対する極めて高い結合特異性を武器に、ガンや自己免疫疾患を中心に様々な疾患の治療薬が数多く開発されています。しかし、放射性標識した抗体による**ガンの診断・治療薬の開発**は、高い効力が期待されるにもかかわらず、限定的にしか行われていないのが現状です。

本プロジェクトは、理工学研究科理学系の伊東が開発した抗体の**部位特異的修飾法であるCCAP法**(特願2017-118735)を使って、**ガンマ線放出核種標識抗体によるガンPETイメージングフロー**(下右図:マウスによるイメージ図)、並びに、**α線放出核種標識抗体によるガン治療薬の開発**を行っています。



本プロジェクトは、**AMEDの医療研究開発革新基盤創成事業**(日本メジフィジックス社代表、鹿児島大学他、3者分担)に採択され、**8年かけて実用化研究(総予算20億円)**を行っています。これらについては、いくつかの新聞報道(上中図:日経産業新聞20170406、(上右図:南日本新聞20170503)、他もなされています。

本プロジェクトの共同研究先企業に、本技術を大学で研究した博士後期課程修了者(博士(理学))、並びに修士修了者各1名が就職しています。